

わ っ か

WAKKA

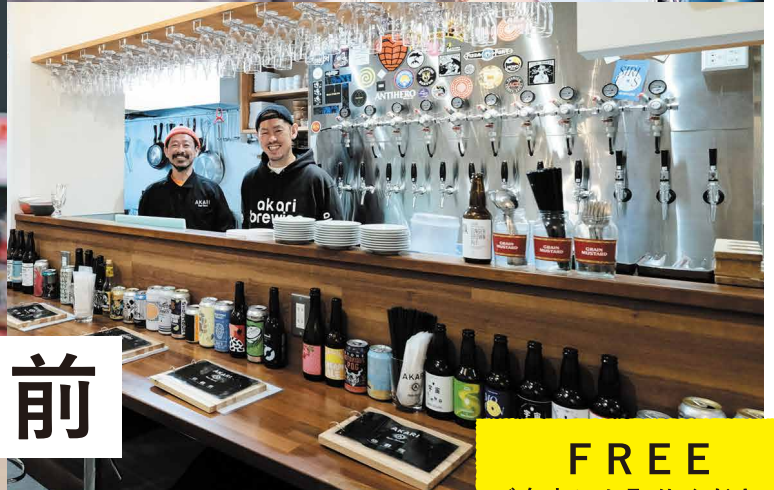
鳥取市のまちなかを
応援する情報誌

2020

WINTER

vol.

38



特集 うごきだす駅前

FREE
ご自由にお取りください

うぶいきだす駅前

2019年9月、鳥取大丸が4階までのフロアをリニューアル。駅前の象徴の変化に期待を寄せる市民らが大勢集まり、大丸がどのように変わるのかについて、豪華なゲストによるトークセッションが開かれました。ここでは単に物を消費するだけでなく、みんながつながるコミュニケーションをとる「場」としての役割が語られました。大丸、そして駅前のこれから、まちづくりについて、自分たちに何ができるかを考えさせられる内容の濃い対談となりました。

㈱シーセブンハヤブサ
AOI Tyo Holdings 代表取締役社長
なかややすひと
中江康人さん

㈱ブルースタジオ
専務取締役・クリエイティブディレクター
おおしまよしひこ
大島芳彦さん

株式会社大丸専務取締役
おかしゅういち
岡周一さん



「場」という百貨店の強み

中江：シーセブンハヤブサのメンバーとして、鳥取大丸の変わりたいんだという思いを受け、企業の骨格から見直していくお手伝いをさせてもらっていますが、対談に当たってまず、リニューアルに込めた思いを改めてお聞きしたいです。

岡：これからの地方百貨店はもっと自由な取り組みをしていくべきで、目的が消費だけでなく、皆さんがコミュニケーションを取る場にしていきたいと思いました。企業理念も「先義後利」から「鳥取を笑顔の溢れる街にする」と変え、ポスターも従業員やお客様の笑顔を並べたものにし、大丸だけじゃなく、

大丸から鳥取が変わるようなことにしたいと思っています。

中江：2020年春には5階と屋上もリニューアルとなり、まさにその理念を形にしていくな場所になるのかなと思います。そのデザインをされるのが大島さん。全国でリノベーション革命を起こされている視点で大丸のリニューアルをどう捉えていますか。

大島：見落としがちですが、日常の風景にこそ持つべき誇りがあると思っています。そして、誇りがなければ地域は再生しない。まちづくりって上からやってくるのを待ちがちですが、市民が動かないとできないんです。だから人が主役であるべき。大丸という、日常でもあり、街の象徴でもある場から、人を中心としたまちづくりが始まるんじゃないかと思っています。

中江：百貨店の強みは「体験」です。提供される体験がいかに豊かであるかが大事。そこでたくさんの方の体験が生まれることで笑顔が波及していく。岡さんとも、百貨店の概念を捨て「場」になりましようね、という話をしました。

5年後の未来予想図

中江：最後に、5年後の未来を考えてみましょう。僕は子どもの笑顔がここにたくさん存在してほしいと思っています。いろんな体験をし、持ち帰り、豊かになつてもらおう。未来を創るのは子どもたちですからね。全ては鳥取のカルチャーをどう作っていくかです。

大島：まちづくりを民間企業ながら公の立場で率先して考えられるのが大丸。パブリックカンパニーとして、隔てないまちづくりの象徴であってほしいと思いますね。

岡：お二人のお話の通りで、鳥取を活力のある街にしたい。熱気、思いが溢れるような。そのためにここ大丸がその拠点になっていけるよう、頑張っていきたいと思っています。

捉え方は自分の問題

中江：正直、経営改善を余儀なくされた大丸を、ネガティブに捉えたら「最悪」ですよ(笑)。でも、それをどう捉えるかが大事なんです。僕も普段から無駄と捉えるか面白いと捉えるか、いろんな角度で見る努力をしているんですが、ポジティブに捉えないと元気が出ないじゃないですか。楽しむっていうのは自分たちの問題で、行政や会社を与えてくれるものではない。

大島：見立て、なんですすよね。駅前通りのシャッターが閉まっている、これを楽しむという心で見立ててみる。例えば空き家問題。これを日本には500兆円分もの空き家、つまり活用を待っている宝の山があると捉えることで、街を変えていくことができます。

中江：ここで、ちょっと5階レストランを運営するトリクミの古田くんにも一言



岡：物語、幸せ、人、知恵…。いろんなものがここに集まってくるような場に、来てもらえるゲスト(お客さん)には最高の体験してもらおうと従業員とも話をしています。

大島：大丸の企業側と市民側の間に、目に見えない境界線をぼかし、なくしていく作業も大事でしょうね。この話に限らず、これまでの社会はいろんな境界線を引くことでシステムを構築してきましたが、今それが通用しなくなっています。価値観が変化してきていますから。

中江：過去数十年であった「成長が基盤」の社会から、緩やかに下っていますからね。経済成長がなくなり、「どうかさ」を彩っていくんだという時代で、楽しい暮らしというものは自分たちで創るものになってきています。それをここ大丸で実現すれば全国のロールモデルにもなる。



お願いしたいです(と急遽マイクを渡される古田琢也さん) 八頭町で飲食店やゲストハウスを運営するトリクミの代表)

古田：八頭町出身ですが、鳥取の駅前や大丸は思い出の詰まった場所。今は事業を八頭町でやっていますが、八頭だけが良ければいいのかというところじゃない。この街で生まれてよかったと思える場所を増やすべき。みんなの共通の思いがある場所を一步でも前に進めていきたいと思います。

大島：一念発起した人を一人ぼっちにせず、みんなで繋がっていくことが大事ですよ。そのためには、「伝えること」が大事で、「あなた」「今」「ここ」でなければできないことを整理することです。ここはハレでなく、ケの日、つまり毎日の暮らしがある場所。この商店街が変われば鳥取の未来の暮らしが変わると思うんです。

2020年春
5F・屋上リニューアル!



株式会社トリクミ

代表取締役 古田琢也さん



鳥取大丸リニューアルをはじめ、駅前に様々な動きが起こり始めていて、とても良い流れだとワクワクします。僕たちの会社も2020年春のグランドリニューアルで大丸5階にレストランをオープンさせ、屋上のビアガーデンも運営していきます。新店舗は、1つの空間にコンセプトも違い店名も別の2つの店舗が共存するような店舗づくりを考えています。まずは、大丸ならではのわざわざ行きたくなくなるレストラン。暖炉と薪窯を使った薪火の料理や、鳥取食材を活かした「ジャパンクラフトビザ」を提供し、「鳥取ならあの店だよ」という店にしたいです。もう1店は、買利物のついでにも気軽に立ち寄る



▲新たにオープンするレストラン『KAEN』のイメージ。

ことができるカフェ。他にもキッズのピザ教室をやったり、様々な人が集える場をイメージしています。そもそも私たちは6年前に創業し、地元八頭町で飲食店やゲストハウスを営んでいます。ただ、飲食をやるのは手段だと思っています。僕らの軸に置いて「場」。「場を生んで、場を営み、場を育てる」を掲げ、「面白い」が生まれる場を目指しています。今回は社運をかけた挑戦です。では、なぜ出店を決めたのか。それは大丸の経営陣の本気が変わるうとしていた思いに共感したからです。人が集い、笑顔が生まれるという大丸が目指す絵が、僕らができる場づくりだと感じました。ただ、大事なことは街が一緒になって大丸を、駅前を育てていかないといけないということです。一つのテナントだけが成功しても意味がなく、みんなで育てることで「僕らの大丸」になり、「僕らの駅前」になるからです。そうなら自分たちが誇れるものになると思います。鳥取全体を楽しくしていきたいですね！

AKARI BREWING

代表取締役社長 鹿見嶋 敦さん



2019年8月に駅前サンロードでクラフトビールが飲める店「Beer Bonds AKARI」をオープンしました。自社の醸造所で作った約30種類のクラフトビールを提供し、鳥取市の玄関口なので県外からのお客様にもたくさんいらしていただいています。

僕らはもともと鹿野町のまちづくり団体「あかり本願衆」のメンバーで、お堀のライトアップなど地元密着で活動してきました。7年ほど前に、ボランティアではなく、地元ちゃんとして貢献できる核となる事業をしようと考え、ビール事業がスタートしました。というのも僕が海外のクラフトビールにはまり、いつか地元でもやりたい



▲醸造長の清部直樹さん。鹿野町で醸造に取り組む。 Beer Bonds AKARI

せんでした。高校時代はとも賑わっていた愛着ある場所です。来街者に地の物を楽しんでもらうお店をつくるう考えた時に、アーケードがあって駅に近いことはとても魅力的でした。賑わいのある街はまず駅前が賑わっています。シャッターが閉まっている店もまだあるんですが、クラフトビールでやっていくと決めた僕らの挑戦が誰かの動きに繋がったら嬉しいです。将来的には、近くの店舗どうしでお客さんの行き来が生まれるような楽しい通りになっていくといいですね。

今そしてこれから活躍するキーパーソンに、駅前への思いや取り組んでいる活動をお聞きしました！

山陰三ツ星マーケット

代表 渡世 唱子さん



大丸前のバード・ハットを中心に、出店事業者がチャレンジでき、それぞれが「ときめく」場になればと『山陰三ツ星マーケット』を開催しています。2年前にまちづくりのワークショップから有志で立ち上がり、女性目線で住みたくくなるような街を考え、食べ物や小物などときめくものが集まった空間が思い浮かびました。イメージは外国のマルシェ。鳥取、島根、兵庫県但馬まで「山陰」というくくりで出店者を募り、登録者数も今や170まで増えました。三ツ星とは、リンクづけの意味ではなく、「こだわり」「心」「オリジナリティー」を持つたという意味です。それらを持った個人的な事業者さんをまとめていく時に最もこ



▲大丸前でのマーケット。心ときめくおしゃれな空間に。 山陰三ツ星マーケット

だわったのが「デザインする」ということ。1店ずつ丁寧に聞き取りをして選んでいきますし、一度の出店数も20程度にしないとバランスが取れないため、時期や内容に合わせてお店を集めています。それもひとつの空間づくりであり、デザインです。そうすることで、駅前の使い方の魅力や鳥取が持つ良い素材をちゃんと伝えることができると思います。マーケットには出店事業者さんの物語が溢れているので、ぜひそれに直接触れてもらいたいです。県外出店もしていて、大阪に出店した時には1日にジャムが300個売れることもありました。今後は農家のネットワークを増やして食をさらに強みに変えたり、ネット販売の可能性もあると思っています。1月19日には、フードシェアリングをテーマとしたマーケットも企画中です。駅前から始まったことですが、小さな取り組みが駅前の賑わい創出だけでなく、個人のチャレンジにつながっているのが嬉しいです！ますます加速していきたいですね。

一般社団法人まるにわ

代表理事 齋藤 浩文さん



僕らが駅前で活動を始めたのは、2015年のリノベーションスクールがきっかけで、そこから有志が集まって「まるにわ」という団体を作りました。スモールエリアを作ろうとした時、駅前で色々仕掛けたいよねという方向になり、16年春に大丸の屋上にまるにわガーデンを作り、17年10月からはメンバーの有志が実行委員会に参加して「山陰三ツ星マーケット」の立ち上げを行い、活動の中心となった渡世さんが運営を担うこととなった今も協力関係にあります。

現在の活動は、チャレンジする事業者と遊休不動産をつなげるという手法で、「自分たちの暮らしが誇れるまち」を



▲トークイベント「ミレニアル世代から見た民藝」の様子。 まるにわ

代は駅前が賑わっていた頃の再現を求めているわけじゃないことに気づきました。「民藝」を現代的に解釈すると、「自分の価値観で選び、作り上げていく暮らし」というふう捉えられるのではと考えました。今回の計画は「暮らしと働き方がテーマで、自分たちでほしい暮らしや働き方を作ろう」というコンセプトです。もちろんいろんな世代や人の価値観があつて当然なんです。僕らのビジョンを持って、このエリアに新たな価値を見出していきます。

「まちなかの取り組みをこ"紹介します」 とっとりまちづくり

風紋広場実証実験

風紋広場で「市民の憩う居場所」
実証実験を行いました！



鳥取市では、風紋広場を賑わいのある広場空間にするため民間事業者による活用を促しています。公民連携による日常的な広場活用方法を模索するため、事業者の出店にあわせて日よけファニチャーを設置し、市民の憩う居場所を整える実証実験を10月23日から10月29日のうち4日間行いました。

期間中は、カレー屋「せかいのまんなか」やジビエ料理「いのしかピヨ」をはじめとした事業者が出店し、平日には専門学校生やサラリーマンなど、休日には同じく風紋広場に設置された砂像を見に訪れた観光客などがファニチャーを利用し、くつろいでいました。

出店者や来場者からは、「日差しが強かったが、ファニチャーには日よけがあるため快適に過ごすことができる。」「風紋広場は皆が思い思いに自由に過ごすことのできる貴重な空間だと思う。」「出店者側にとっても電気設備が整っており気軽に店舗しやすい。」「いろいろな

方にきていただきたい。出店される方も増えてくればもっと賑わいが生まれると思う。」といった声が聞かれました。

不定期出店ではありますが、出店店舗を見かけましたらぜひお立ち寄りください。

また、風紋広場に店舗してみたいと思われる方はお気軽に鳥取市公園・スポーツ施設協会までご相談ください。

鳥取市公園・スポーツ施設協会 TEL:0857-21-5532

ノーマイカー通勤「ノルデ運動」

JRや路線バスの利用を促進し、公共交通を守っていくとともに、CO2の削減による地球温暖化防止に貢献するため、ノルデ運動(ノーマイカー通勤)に全市的に取り組みます。

- 実施日 11月1日(金)～令和2年3月31日(火)※毎週金曜日は取り組み強化日
- 対象 ○市内の事業所などに勤務されている方で、普段マイカー通勤をしている人
○通勤手当(JR、バス、徒歩、自転車)の受給者
- 参加方法 ○右下のQRコードから登録していただくか、もしくは鳥取市HPから「ノルデ運動」と検索し、表示されたページから登録してください。後日、「ノルデカード」を送付します。
- 参加特典 毎週金曜日に次の特典が受けられます。
○路線バス運賃が半額(乗車、降車のいずれかに鳥取市内の区間が含まれる場合に限る)
○協賛店舗での割引サービス(店舗情報は鳥取市ホームページで随時更新します)



詳細・登録は
こちら！



鳥取市都市整備部交通政策課 TEL:0857-30-8326 FAX:0857-20-3953

※まちなか…鳥取市中心市街地活性化基本計画に定められた中心市街地区域内

MACHINAKA LIFE STYLE

駅から徒歩5分の今町2丁目的一角。ここで新しい人の動きや働き方のカタチが生まれているようです。



Y PUB&HOSTEL TOTTORI

なかがわかおる
2016年1月にオープンしたゲストハウスで、店長をつとめる中川薫さん。「Yは鳥取の玄関口にあって可能性があるおもしろい場所」と話す。訪れたゲストさんとは、カウンター越しに何が好きなのかを聞くやさしいインタビューから始めるそう。「鳥取は何があるのかイメージが分かりにくいのがチャンス。これもあるよ〜ってお薦めして



いって、マイナスの先入観をプラスに持っていけると嬉しいんです。」と中川さん。

Yのバブ空間は誰でも利用でき、毎日のように通う常連さんも。ゲストやお客さんどうしのつながりを広げられたらと、月1でナイトマーケット「金太郎夜市」を開催。1月25日にはオープン4周年記念を企画中！ 鳥取市今町2丁目201トウビル ☎0857-30-7553 Y PUB&HOSTEL TOTTORI



Y PUB&HOSTEL TOTTORI
一人の時間を安心してくつろげる宿&呑んで食べてゆっくり出来るバブ。

RMS
Yに隣接する全7席の小型シェアオフィス。個別デスク型で安心。のんびりとした雰囲気。

2F マルチクリエイティブohako
ミニチュアフードアクセサリーの展示販売。
FLOR NAIL
完全予約制の隠れ家ネイルサロン

OFFICE24
共有キッチンや会議スペース、プリンターなど機能充実のシェアオフィス。スマートロックで24時間利用可。個別デスク型で全24席。

1F 砂丘屋
日本酒が美味しい小さな居酒屋

OFFICE 24

鳥取市今町2丁目218 OFFICE24

利用者募集中!

「いろんな価値観や職種のフリーランスの人たちが集まると面白いし、そういう人たちの居場所となるシェアオフィスをつくれたら。」と話す、OFFICE24を運営する工作社の本間公さん。自身も内装や家具づくりを手がける事業主であり、「やっぱり1人でやっていると心細くなる時ってある。同じように頑張っている人が見えたり、仲間がいるのは勇気になる。そういう熱とか



化学反応みたいなのが起こる場所を準備できたら、やりがいがあると思ったんだよね。」とも。

このエリアが動きかけを作ったのが本間さんだった。Yに始まり、数年かけてじわじわと広がっている。「ニュートラルで窮屈さもない。駅近なのに誰も手をつけてなくてもったいなーと思ったところからだったなあ。」と本間さんは楽しそうに話す。



発行／鳥取市中心市街地活性化協議会・鳥取市都市整備部
 わっかに関するお問い合わせ先／鳥取市中心市街地活性化協議会
 TEL:0857-391077 FAX:0857-391222
 ※この印刷物は、国等による環境物品等の調達等の推進等に関する法律(グリーン購入法)に基づく基本方針の判断の基準を満たす紙を使用しています。

2020年 冬～春		まちなかイベントスケジュール		※イベント内容等は変更となることがありますので、ご了承ください。	
期間	イベント名	会場	主催者		
1/19 日	新春フードレスキューもつたいないを救おう! 山陰三ツ星マーケット×tabeloop	駅前太平線バード・ハット、大丸軒下	山陰三ツ星マーケット		
1/19 日	建設女子会 ～鳥取県の建設業界を知ろう～(要申込)	パレットとっとり市民交流ホール	NPOツナガルドボク中国		
1/24 金～26 日	パレット料理教室(要申込)	パレットとっとり市民交流ホール	鳥取商工会議所、JF鳥取県漁業協同組合、Senka工房		
1/26 日	映画「タクシー運転手～約束は海を越えて」上映会	鳥取県立博物館	鳥取コミュニティシネマ		
2/19 水～24 日(土)	あなたの→僕らのレコジャケ展	パレットとっとり市民交流ホール	鳥取商工会議所		
3/21 土	スプリングコンサート「ソプラノの歌声を聴く」	仁風閣 2階謁見所	鳥取市文化財団 仁風閣		
3/22 日	森田恵子監督作品「旅する映写機」 「まわる映写機めぐる人生」上映会	鳥取県立博物館	鳥取コミュニティシネマ		

鳥取市中心市街地活性化協議会

MACHINAKA EVENT REPORT

『子ども建築写真ツアー』



▲おうちだにグランドアパートにて、建築士の木下正昭さんの説明を聞いて撮影。講師として鳥取市教育委員会文化財課の岡垣頼和さんにも随行頂きました。

2019年11月24日、鳥取県建築士会東部支部の主催で『子ども建築写真ツアー』を開催しました。

小学生を中心に、5歳から高校生までが家族と一緒に参加。鳥取出身の写真家である水本俊也さんにレクチャーを受け、一眼デジタルカメラで文化財建築を撮影しながらまち歩きをしました。

子どもたちに自由な視点で建築写真を撮ってもらおうという企画でしたが、親子のたくさんの笑顔が見られました。

このツアーをきっかけに、建物や自分たちの住むまちのことを少しでも気にかけてもらえるようになったらと願っています。

鳥取県建築士会東部支部長 赤山 渉



▲まずは水本さんから一眼デジカメの使い方を教わります。



▲国指定重要文化財の鳥取東照宮。参加者は思い思いに撮影。



▲やまびこ館にて、鳥取市の歴史も学びました。



▲最終撮影地の高砂屋にて、各自お気に入りの1枚を選びました。

わっか38号取材先MAP

編集部より

2020年新年号よりデザインをリニューアルしました！
より楽しく分かりやすくまちなかの情報を皆さまにお届けしていきたいと思ひます。